

書評

リハビリテーションレジデントマニュアル 第4版

木村彰男(監修)
辻 哲也(編)

水野勝広, 村岡香織, 石川愛子, 川上途行(編集協力)

B6変型・432頁

定価: 4,620円(本体4,200円+税10%)

医学書院刊, 2022年

いまだから必要なリハビリテーションが 凝縮された一冊

[評者] 山口智史 順天堂大学保健医療学部理学療法学科

神経疾患, 整形外科疾患, 内部疾患, 悪性腫瘍など多種多様な疾患において, どのようなリハビリテーションが必要なのか? 最良のリハビリテーションを提供するには, どのような知識が必要なのか? 本書では, そういった不安や疑問を, 日本のリハビリテーション医学・医療を牽引してきた慶應義塾大学リハビリテーション医学教室に携わるリハビリテーション専門医が明確にポイントを示しながら, 図表とともにわかりやすく解説している。

監修を務める木村彰男先生が序文で述べられているように, 近年の医学・医療では, 医療制度の改定により, 疾患ごとの治療法や治療期間が制限され, 画一的な医療が提供されるようになった。これはリハビリテーション医学・医療においても同様であり, 日常生活動作の早期獲得のみを目的とした, 生活動作の反復練習を主体としたリハビリテーションを目的とすることがある。当然, 生活動作の反復は重要であり, 日常生活の自立度を高めるために必要である。しかしながら, リハビリ

テーション医学・医療の治療は, 動作反復だけでよいのだろうか?

第I章では, この問いに答えるように「リハビリテーション医学・医療」について, 重要な定義が記載されている。リハビリテーション医学は, 運動障害(dysmobility)を来す疾患・病態の診断・評価・治療を専門とする医学の一分野であり, 臓器・疾患別ではなく, 運動障害をシステムとしてとらえる。さらに運動障害の原因は, ①神経・筋・骨格系(運動実行系), ②呼吸・循環系(エネルギー供給系), ③生活環境に分けられる。そのいずれかに問題がある場合には, 疾患横断的に, リハビリテーション医学・医療の対象となる。そして治療として, 廃用を予防するとともに, 機能回復的アプローチにより, 障害の的確な評価に基づいて, 機能を最大限まで回復し, 代償的なアプローチにより日常生活の自立度を高める。このリハビリテーションの治療概念は, 医学・医療の進歩により, 新しい治療が開発されたとしても, リハビリテーション医学・医療の根幹だと考える。

第II章では, リハビリテーション医学・医療を実践するための診断と評価が障害や動作レベルに分類され説明されている。さらに, 第III章では, 具体的な治療方法について記載されるとともに, 治療後の効果判定にまで言及されており, より実践的な視点を学ぶことができる。第IV章では, リハビリテーション医学・医療の対象となることが多い疾患別の診断と評価, リハビリテーション治療がわかりやすく説明されている。第V章では, 在宅リハビリテーション, 行政や福祉用具の知識, さらに災害リハビリテーションにまで触れられている。

本書はポケットサイズで, 物足りない内容なのではないかと考える方もいるかもしれないが, 前述のように重要なポイントがすべての項目で端的にまとめられており, 本来に必要な知識が記載されている。本書は, リハビリテーション科専門医をめざす研修医や医師, 他科の医師, 理学療法士, 作業療法士だけでなく, 養成校の学生においても必要な知識を提供してくれる一冊と言えるだろう。

